

博物館NEWS

ニュース



ルウンペ（加藤町子作／財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構所蔵）

ルウンペは、かつてアイヌの人たちが、本州との交易や漁場などで働いて手に入れるようになった木綿これつの古裂で作り出した衣服の一つです。木綿の古裂をつなぎ合わせて、その上に、絹・サラサ・メリンス・木綿などの色物の古裂を細かく切ったものを切伏している、極めて手のこんだ衣服です。それぞれにアイヌ民族のすばらしい文様がつけられています。

写真の資料は、国立スコットランド博物館に収められているかつてのルウンペを、現在、アイヌ

工芸作家として活動している加藤町子氏が、忠実に複製したものです。「古い衣服にこだわりを持っている心の伝承、製作に対する努力、生きることの意味、アイヌであることの誇りを感じとることのできる作品」として、アイヌの人たちから推薦すいせんされた資料の一つです。

なお、この作品は、企画展「アイヌからのメッセージ—ものづくりと心—」（p. 4～5 参照）で展示されます。

（民俗担当：庄武憲子）

辰砂の精製

高島 芳弘

神聖な色「赤」

赤い色は神聖な色として、旧石器時代、縄文時代から土器や木製品の表面に塗られたり、人を墓に埋葬するとき上から振りかけたりして使われてきました。これらの赤色顔料にはベンガラと辰砂（水銀朱）の二種類があり、鉛丹は奈良時代になるまで使われませんでした。

西日本では弥生時代の終わり頃から赤色の顔料として辰砂が多く使われるようになり、古墳時代初めには辰砂が古墳の石室に多く振りまかれるようになります。奈良県の大和天神山古墳の竪穴式石室の中には41kgの辰砂が使われていました。赤く染まった人骨は甕棺などから出土した弥生時代のものが多く知られていますが、徳島市の鶴島山2号墳からは辰砂で顔面が朱に染まった人骨が出土しています（図1）。古墳の石室には人骨が残ることが少ないので、たいへん貴重な例です。



図1 鶴島山2号墳の朱染めの人骨（徳島大学保管）

辰砂の採掘・精製と石臼・石杵

辰砂の採掘は縄文時代から行われていました。伊勢水銀として古くから知られている三重県勢和村丹生付近では、縄文時代後期の度会町森添、嬉野町天白の両遺跡から、辰砂の付着した石皿、磨石や朱の容器と考えられる土器が数多く出土しており、このころから辰砂の精製が行われていたことがわかります。徳島市国府町の矢野遺跡においても縄文時代後期から辰砂の精製が行われていたようです。

弥生時代以降の辰砂の採掘では徳島県阿南市の

若杉山遺跡が有名で、弥生時代終末期～古墳時代初頭の一大産地であったと思われます。

弥生・古墳時代の辰砂を精製するための石臼・石杵は、採掘遺跡、集落跡、古墳から発見されています。辰砂採掘の遺跡は若杉山遺跡の発見まで明らかでなく、最初は古墳の副葬品としての石臼・石杵が注目されていました。

古墳からの出土品には、福井県丹生郡の朝日古墳群中条4号墳から出土したもの（図2）や大阪府の野中古墳の出土品のように、きれいに整形されているものが多く見受けられますが、なかには福島県の会津大塚山古墳出土例のように自然石を利用したものもあります。県内では鶴島山10号墳の竪穴式石室から石杵2点が出土しており、加工したものと自然石を使ったものとの両方があります。

ただし、加工したもの、自然石のどちらにもすりつぶした痕跡しか見あたらず、古墳における石臼・石杵を使った辰砂の精製としては、埋葬に先立って、微細な粉末をさらにすりつぶす程度の儀礼的な意味合いしかなかったものと思われます。

若杉山遺跡では、石臼は40点以上、石杵は300点以上出土しています。大部分の石臼には石杵によって叩かれてできたくぼみが何力所かあり、石杵には両端に潰れた跡や小さく欠けた跡がみられません（図3）。これらのことから、若杉山遺跡では辰砂の採掘、おおまかな粉碎の作業が中心に行われており、微粉化はあまり行われていなかったため



図2 朝日古墳群中条4号墳出土の石臼・石杵（福井県陶芸館蔵）



図3 若杉山遺跡出土の石臼・石杵（当館蔵）

はないかとも考えられてきました。

しかし、石杵のなかには、大きさによってばらつきはあるものの、潰れた跡や小さく欠けた跡とともにすりつぶした痕跡を持つものがある程度あり、石臼にも丸いくぼみをもたずに磨かれた面だけをもつものもあります。すりつぶす作業は主体ではないものの、かなりの割合で行われていたものと思われる。

また、若杉山遺跡の発掘調査地点だけでなく、周辺地域でも石臼・石杵が発見されていますが、ここからもすりつぶすために使われたと思われる石杵が見つっています。

集落跡から出土する石臼・石杵は、辰砂の採掘遺跡の石臼・石杵よりも古墳出土のものに似ており、擦られた面と少し叩かれた跡があるだけです。

徳島県では板野町の黒谷川郡頭遺跡、徳島市の名東遺跡、矢野遺跡などで内面に朱の付着した朱容器と考えられるものといっしょに石臼・石杵が見つっています。特に名東遺跡では、竪穴住居跡の床から、すりつぶしに使われた面に辰砂がすり込まれたように付着した石杵2点（図4）が出土しており、床から掘り込まれた土坑からは、10cm足らずの厚みで朱と炭化物が互層になって発見されました。この住居跡は朱の最終的な精製を行っていたと考えられています。これら吉野川・鮎喰川の下流域のムラでは、若杉山から運ばれてきた辰砂をさらに精製して畿内方面に運び出していたと考えられてきました。

しかし、名東遺跡出土のすりつぶしに使われた面を持つ石杵はこの2点だけであり、ここにいったん集めて畿内方面に再び運び出したと考えるには、石臼・石杵の量が少ないような気がします。板野町の黒谷川郡頭遺跡、徳島市の矢野遺跡も同様だと思われる。

これに対して辰砂の産地とは遠く離れた地域でも石臼・石杵や朱の容器が多く見つっています。兵庫県龍野市の養久山・前地遺跡から朱の付着した非常に大きな石臼が発見されています。ここの住居跡で最終的な精製を行い周りの集落に配布していたと考えられています。

辰砂の流通

弥生時代終末～古墳時代初頭の辰砂の採掘遺跡である若杉山遺跡が確認されて以降、古墳の石室で辰砂が大量使用されること、ほかに採掘遺跡が見つからないことから、若杉山遺跡から吉野川下流域へ辰砂をいったん集め、ここで精製して畿内へ向けて運び出されたと考えられてきました。

しかし、辰砂を産出しない龍野のような地域で、辰砂の最終的な精製が行われていたとすれば、辰砂は産地から消費地へ直接運ばれたと考えた方がよいのではないのでしょうか。辰砂をすりつぶすための石臼・石杵がもっと多く出土する集落跡が出てきたときに、そこを集散地的な性格のムラと考え、若杉山遺跡における採掘形態と合わせて検討する必要があります。

古墳出土の辰砂の産地については、はっきりとはわかっていません。なかには赤い色が水銀朱なのかベンガラなのかさえわかっていない場合もあります。

現在、産地と古墳、集落跡などで採集された辰砂についてヒ素などの微量元素の分析による産地推定が行われようとしています。これによって産地が推定されたとき、どこの産地の辰砂がどの古墳あるいはどの集落に供給されたのか明らかになると思います。

（考古担当）



図4 名東遺跡出土の石杵
（徳島県立埋蔵文化財総合センター蔵）

平成15年度 第2回企画展 **アイヌ工芸品展**

アイヌからのメッセージ -ものづくりと心-

これまで、博物館や美術館などを会場に、アイヌ文化の展示は多数行われてきましたが、大部分はアイヌ文化研究者や博物館・美術館の学芸員により企画・構成され、アイヌの人びと自身の参画はほとんどありませんでした。近年の世界の民族展示では、民族をどう紹介するかを民族自らが決定するという方法が採用されはじめています。本展は、こうした点を踏まえて、「アイヌの人びと自らが現代のアイヌ及び文化を語る」ことをテーマに構成された展覧会です。

現在のアイヌ工芸家の人たちの活動の状況やその背景、アイヌの人びとが推薦した工芸品、現在のアイヌ文化継承の有り様とこれからの展望などを資料とメッセージによって紹介します。

なお、本展は「人権教育のための国連10年」に協賛するものです。

●主 催

徳島県立博物館、徳島県立21世紀館、
財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

●後 援

国土交通省、文化庁、徳島市、徳島市教育
委員会、北海道、北海道教育委員会

●会 場

博物館企画展示室・21世紀館多目的活動室

●会 期

平成15年7月19日(土)～8月31日(日)

●開館時間

9:30～17:00

●休館日

7月22日(火)、7月28日(月)、8月4日・
11日・18日・25日(月)

●観覧料

無 料

●関連行事 (すべて無料)

(1) 記念講演会「鳥居龍蔵とアイヌ文化」

国立民族学博物館教授 大塚和義氏

7月21日(月)13:30～15:00

21世紀館イベントホール



たばこ入れ (貝澤幸司作/財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構所蔵)



花ござ (杉村キナラブック作/財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構所蔵)

(2) 展示解説

7月20日(日)13:30~14:30

8月10日(日)13:30~14:30

博物館企画展示室・21世紀館多目的活動室

(3) アイヌ伝統工芸の体験学習

*会場は博物館実習室で、1日2回実施します。

(1回目)10:30~12:00

(2回目)13:30~15:00

*各回とも定員30名、往復はがきで以下の申込締め切り日までに博物館までお申し込みください。

・「アイヌの楽器ムックリをつくろう」

7月27日(日)

*申し込み締切日 7月17日(木)

・「アイヌ文様を彫ってコースターをつくろう」

8月17日(日)

*申し込み締切日 8月7日(木)

(4) アイヌ伝統民具「花ごぞ」の製作実演

8月13日(水)

10:00~12:00、13:00~16:00

博物館企画展示室・21世紀館多目的活動室

実演者 ヤイユーカラの森代表 計良智子氏

(5) アイヌ文化紹介のビデオ上映

アイヌの衣食住、儀礼などの文化を紹介するビデオを上映します。

会期中の土曜日(8月9日を除く)と阿波

踊り期間中(8月12~15日)は毎日上映

21世紀館ミニシアター

●同時開催行事(すべて無料)

(1) アイヌ文化フェスティバル

・講演「知里幸恵の<言語>」

藤女子大学文学部教授 丸山隆司氏

7月19日(土)16:30~18:00

21世紀館イベントホール

*入場整理券が必要です。

*問い合わせ先 徳島県立21世紀館
(TEL 088-668-1111)

・芸能公演

7月19日(土)18:30~20:30

21世紀館野外劇場

*申込不要

(2) 知里幸恵生誕100年記念巡回展

「自由の天地を求めて~知里幸恵『アイヌ神謡集』への道~」

アイヌの口承文芸の優れた記録者で、19歳で夭折した知里幸恵の生誕100年を記念する展示会。写真・遺品などを紹介します。

7月19日(土)~7月27日(日)

近代美術館ギャラリー

*休館日 7月22日(火)

(3) アイヌ関係資料展

7月18日(金)~8月31日(日)

図書館展示ロビー(1階)



アイヌ古式舞踊

(写真提供: 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構)



花矢(新井田幹夫作/
財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構所蔵)



知里幸恵(横山むつみ所蔵/写真提供: 北海道立文学館)

この銅鐸は、徳島県の南部、阿南市中大野町の現在持井橋がかかる場所のやや下流、通称八貫渡と呼ばれる場所から出土した銅鐸です（図1）。現存するのは銅鐸の鈕（吊り手）部分のみですが、その高さは約30cmあり、推定される全体の高さは、現存する県内出土の銅鐸のうち最も大きい矢野銅鐸（徳島市国府町矢野出土、高さ97.8cm、重要文化財、図2）とほぼ同じか、あるいはやや大きいくらいの100cm前後と考えられます。

銅鐸の中では最も新しい突線鈕式銅鐸と呼ばれるグループのうち、近畿地方を中心に分布する近畿式銅鐸に分類され、弥生時代後期（紀元2世紀ごろ）に作られたものであると考えられます。

銅鐸の本体部分にあたる身は残存していませんが、矢野銅鐸などと同じように袈裟襷文が施されていたものと推定されます。また、矢野銅鐸をはじめ多くの近畿式銅鐸に見られるように、吊り手の最上部とその左右、あわせて3カ所に双頭渦文と呼ばれる渦巻き文様の飾耳があったようで、その痕跡が残っており、付け根部分には文様も確認できます。

徳島県内では多くの銅鐸が発見されていますが、比較的まとまって出土する地域は矢野銅鐸などが出土した徳島市西部の鮎喰川流域とその周辺、八貫渡銅鐸などが出土した阿南市的那賀川流域とその周辺にあります。いずれの地域からも畿内との深いつながりをうかがわせる近畿式の銅鐸が出土



図1 八貫渡銅鐸

していることになり、今からおよそ2000年ほど前、弥生時代の徳島と畿内との関係を考える上でも重要な資料であるといえます。

八貫渡銅鐸は、長い間個人蔵として保管されてきたために、一般に公開されることはほとんどありませんでした。写真が掲載された文献も極めて少なく、銅鐸研究者でもなかなか実物を見ることができなかった資料です。この資料が徳島県立博物館の館蔵品となったことで、広く一般に公開し、多くの方々に見ていただくことができるようになりました。すでに常設展示の「ムラからクニへ」のなかの「銅鐸のまつり」のコーナーに展示していますので、ぜひ一度実物をご覧ください。

なお、矢野銅鐸は、徳島県立埋蔵文化財総合センター（板野町犬伏）と徳島市立考古資料館（徳島市国府町西矢野）に複製が常時展示されています。

（考古・保存科学担当：魚島純一）



図2 矢野銅鐸
（徳島県立埋蔵文化財総合センター提供）

南の島からやってきた木の実

—サキシマスオウノキとモモタマナ—

これまでも何度か漂着種子^{ひょうちやく}についてご紹介してきましたが、今回はその続報です。植物は動物のように動き回れないので、分布域を広げるためにできるだけ遠くに種子を送り届けようと工夫しています。鳥や動物に食べられて運ばれたり、風で飛んだりするものがありますが、中には潮の流れによって運ばれる種や実もあります。その代表はココヤシで、南方の植物ですが黒潮^{くろしお}によって徳島県の海岸にも漂着します。

さて、今回ご紹介するのもこの海の潮の流れを利用して果実を散布^{さんぷ}している海流散布植物です。まずは、サキシマスオウノキ。冬のある日、県南の海岸を歩いていて見つけました（図1）。扁平^{へんぺい}な楕円形で長さは6.8cm、幅は5cm、厚さは3.2cmほど。真ん中に船の底のような出っ張りがあるのが特徴です。

この木は、奄美大島以南から熱帯アジア、アフリカ、ポリネシアなどのマングロープ林の縁などに生える南方系の植物なので、少なくとも何百キロも潮に運ばれてきたと思われる。



図1 サキシマスオウノキの実
石に混ざっていると見つけにくい。

ところでこのサキシマスオウノキは熱帯・亜熱帯多雨林のシンボルとも言われる面白い特徴を持っています。それは“板根^{ばんこん}”というものです（図2）。板根は根っこが板のように盛り上がり、高さ1mにもなります。これには大きな幹を支える役割があるといわれていますが、四方に伸びた様はとてもエキゾチックです。なんでも沖縄県の竹富島にはこの根で作られた船の舵^{かじ}があるそうで、今から150年くらい前の江戸時代の作とされています。

つづいてのモモタマナも海流で種子散布する植物です。私は県南の竹ヶ島などで見つけましたが、



図2 サキシマスオウノキの板根
隣に立っているのは筆者。

徳島県で拾われるのはとても珍しいことです。モモタマナは別名をコバテイシとも言うシクンシ科の植物で、高さ20mほどにもなる大きな木です。世界の熱帯から亜熱帯に多く、日本でも沖縄県南部以南には自生しています。このモモタマナはパラオ島では無上の珍味とされていて、中の種子をヤシから採った甘味料で煮詰めて、特別な集まりの時に振る舞うそうです。味は淡白で少しアーモンドの香りがあるので、英語ではトロピカルアーモンドなどとも呼ばれています。

いずれの果実もコルク質の層などがあって軽く浮きやすくなっており、遠く異国まで旅することができるのです。ふらりと立ち寄った海岸で、このような南の植物を拾うといつも不思議な感動があります。

（植物担当：茨木 靖）



図3 モモタマナの実
外側の皮がとれてコルク質の層が出ている。

7月から9月までの博物館普及行事 あなたも参加してみませんか？

シリーズ	行事名	実施日	実施時間	対象等(人数)
野外自然かんさつ	川魚かんさつ	7月13日(日)	9:30~12:00	小学生から一般(40名)※2
	漂着物を探そう	7月27日(日)	9:00~17:30	小学生から一般 バス使用(35名)※2
	水生昆虫のかんさつ	8月2日(土)	10:00~12:00	小学生から一般(50名)※2
	鳴く虫のかんさつ	9月6日(土)	19:00~21:00	小学生から一般(30名)※2
	河口のいきもの	9月28日(日)	12:00~14:00	小学生から一般(70名)※2
室内実習	植物標本の作り方・名前の調べ方	8月2日(土)	10:00~15:00	小学生から一般(30名)※2
	かんたんな貝の標本の作り方	8月10日(日)	13:30~15:30	小学生から一般(40名)※2
	標本の名前を調べる会	8月27日(水)	10:00~16:00	小学生から一般 ※1
	ミクロの世界 —電子顕微鏡で植物を見よう①	9月7日(日)	13:30~15:30	小学生から一般(10名)※2
	こどもレプリカ教室	9月14日(日)	13:30~15:30	小学生から一般(30名)※2
ミュージアムトーク	やさしい地層と化石のはなし	7月26日(土)	13:30~15:00	小学生から一般(50名)※1
	阿波の中世文書 —その謎を探る—	9月20日(土)	13:30~15:00	一般(50名)※1
歴史体験	火おこし①	7月19日(土)	10:00~12:00	小学生から一般(30名)※2
	火おこし②	8月3日(日)	10:00~12:00	小学生から一般(30名)※2
	戦時中の食事・すいとんをつくろう	8月16日(土)	10:00~12:00	小学生から一般(35名)※2
みどりの探検隊	夏の吉野川に咲く花を探そう	8月10日(日)	13:00~15:00	小学生から一般(10名)※2
みどりの工作隊	押し葉カルタで遊ぼう	7月20日(日)	10:00~13:00	小学生から一般(30名)※2
	葉脈標本できれいなしおりをつくろう	8月24日(日)	10:00~13:00	小学生から一般(30名)※2
企画展関連行事	企画展示解説	7月20日(日) 8月10日(日)	13:30~14:30	企画展「アイヌ工芸品展」 観覧料無料(50名)※1
	記念講演会「鳥居龍蔵とアイヌ文化」	7月21日(月)	13:30~15:00	イベントホール(200名)※1
	アイヌ楽器ムックリを作ろう	7月27日(日)	10:30~12:00 13:30~15:00	小学生から一般(各30名)※2
	アイヌ文様を彫ってコースターを作ろう	8月17日(日)	10:30~12:00 13:30~15:00	小学生から一般(各30名)※2
企画展同時開催 アイヌ文化フェスティバル	講演会	7月19日(土)	16:30~18:00	イベントホール(250名)※3
	芸能公演	7月19日(土)	18:30~20:30	小学生から一般、野外劇場 ※1

- ※1は、申し込み不要です。その他は、往復はがきでお申し込みください(受付は各行事の1カ月前から10日前までの期間)。
- ※2は、小学生の場合保護者の同伴が必要です。
- ※3は、整理券が必要です。問い合わせ先：21世紀館(電話 088-668-1111)。
- 詳しいことは博物館までお問い合わせください。

博物館友の会活動で新たな発見を

博物館友の会は、さまざまな活動を通じて、自然や文化に親しむとともに、会員同士が交流しながら勉強したり、楽しむことを目的としています。

平成15年度も自然農体験や夏と秋の研修旅行など、いろいろな行事を計画し、これまで以上に友の会に親しみを持っていただけるようにと考えています。ご家族でまた友だちを誘って友の会に入りませんか。皆さんの入会をお待ちしています。

(友の会事務局担当：古東謙司)



しどう
祠堂を調べる
(第9回園瀬川探検、佐那河内村府能にて)

博物館ニュース No. 51

発行年月日 2003年6月15日
編集・発行 徳島県立博物館 〒770-8070 徳島市八万町向寺山
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197
<http://www.museum.comet.go.jp>